

建設工事単価なお上昇

鉄筋加工など 人手不足、暑さで深刻

鉄筋加工など建設関連工事の単価上昇が続いている。景気拡大が続く大都市の再開発需要が見込めるなか、熟練工などの不足感が強まっているためだ。夏本番を迎え、暑さで人員確保は一段と難しくなってきた。専門業者に対するセネコン（総合建設会社）の発注単価は年初に比べ最大で割前後上昇している。特に人手不足感が強いのが鉄筋・型枠工事だ。鉄筋を切断して組み立てる鉄筋工事は「人員が二〇%ほど足りない」（全

平均的な工事単価
(カッコ内は年初比上昇率)

	東京	大阪
鉄筋(1トン)	43,000円 (2%)	42,000円 (5%)
型枠 (1平方メートル)	3,900円 (11%)	3,300円 (10%)
とび(1日)	20,000円以上 (5%以上)	20,500円 (3%)

国鉄筋工事業協会」とい、東京地区の工事単価は、一ト四万三千円前後。年初比で平均千円(二%)程度上がった。大阪も四万二千円前後と約二千円(五%)上昇した。暑さが人手不足に拍車をかけている。鉄筋コンクリートの基礎をつくる型枠工事は「今月は東京で働ける人の数が必要人員に対し約二五%不足する見込み」(業界団体の日本建設大工事業協会。東京の単価は一平方メートル九百円前後と年初比一%高い。大阪市内の工務店も「労働条件が悪化する八月は現場の作業効率も落ちる」と話す。大型物件中心に工期の短縮が進み、一時期に集

中して多数の技能者が必要となったことも影響している。人手不足による工事の遅れを懸念するセネコンは、専門業者の値上げ要求を受け入れる姿勢をみせつつある。建設関連の労働者数は九万人。十年前のピークに比べ二二%減った。